

JFEシビル

杭と柱の一体化工法を改良

表層地盤改良でコスト減

大型食品工場で初採用

JFEシビル(社長・藤井善英氏)は杭と柱の一体化工法「いちいち基礎工法」を改良した「表層部分改良いちいち基礎工法」を開発した。表層地盤を地盤改良することによって通常の杭基礎と比べて坪1万円程度のコストダウンを実現できる。日清医療食品の新工場「ヘルスケアフードファクトリー亀岡」(京都府亀岡市)向けにシステム建築「メタルビル」を受注し、本工法が初適用された。

「いちいち基礎工法」は基礎杭と柱を一体化させ基礎梁を省略する工法。従来工法に比べ基礎・鉄骨工費を約1割低減できる(延床面積1500平方メートル)ほか、掘削土量も抑制し工期も短縮できる。同社のシステム建築事業において短工

初適用に至った。受注した案件の設計は中央設備エンジニアリング、元請けは古久根建設で先月に杭工事を完了し、今月に鉄骨建方工事に着手した。
鉄骨造2階建て、延床面積約1万5千平方メートルの工場で病院・介護福祉施設での給食委託会社のリーディングカンパニーにである日清医療食品の6カ所目で最大規模のセントラルキッチンとなる。JFEシビルはメタルワーク(杭、鉄骨、屋根、外壁工事)を請負い、完工は来年1月を予定している。

期の切り札として強力な武器となっており適用案件は急激に増加している。

今回、表層地盤を改良することで杭頭変位を抑え、通常の「いちいち基礎工法」と同等の部材断面を実現する「表層部分改良いちいち基礎工法」を開発し